

福井の地名から学ぶ防災・減災について ～小浜市編～

令和4年3月 中間報告会

地象分科会

1 はじめに

大雨などの防災・減災を考えるにあたって、気象と並ぶ重要な要素として地形があげられる。

河川に近ければ、増水・越水対策、窪んだ土地であれば、浸水被害対策、山に面しているのであれば、土砂災害などの対策が必要になってくる。地形を理解することは、対策を講ずる上で、必要な知識となることは言うまでもない。

そのような地形を読み解くにあたって、切り離せないものが、地名である。地名はその地域が、過去にどのような地形であったのか、どのような災害が起こり得るのかといった、災害リスクを把握するのに有用な要素だといえる。

本活動は現地調査や文献等を通して、その地形の特徴をとらえ、地名との関連について考察していく。

第8～9期では小浜市を対象として調査を行っている。昨年10月末に現地調査を実施したため、本報告では現地調査の結果を中心に報告する。

1 第8～9期の活動記録

NPOREF 第8～9期地象分科会活動記録

	日程	人数	内 容
8期 第1回	R2.8.1	6名	活動方針検討
8期 第2回	R3.2.22 ～2.25	6名	メール会議
8期 第3回	R3.3.18 ～5.31	6名	メール会議
9期 第4回	R3.10.30	6名	現地調査
9期 第5回	R4.2.18 ～2.28	6名	メール会議

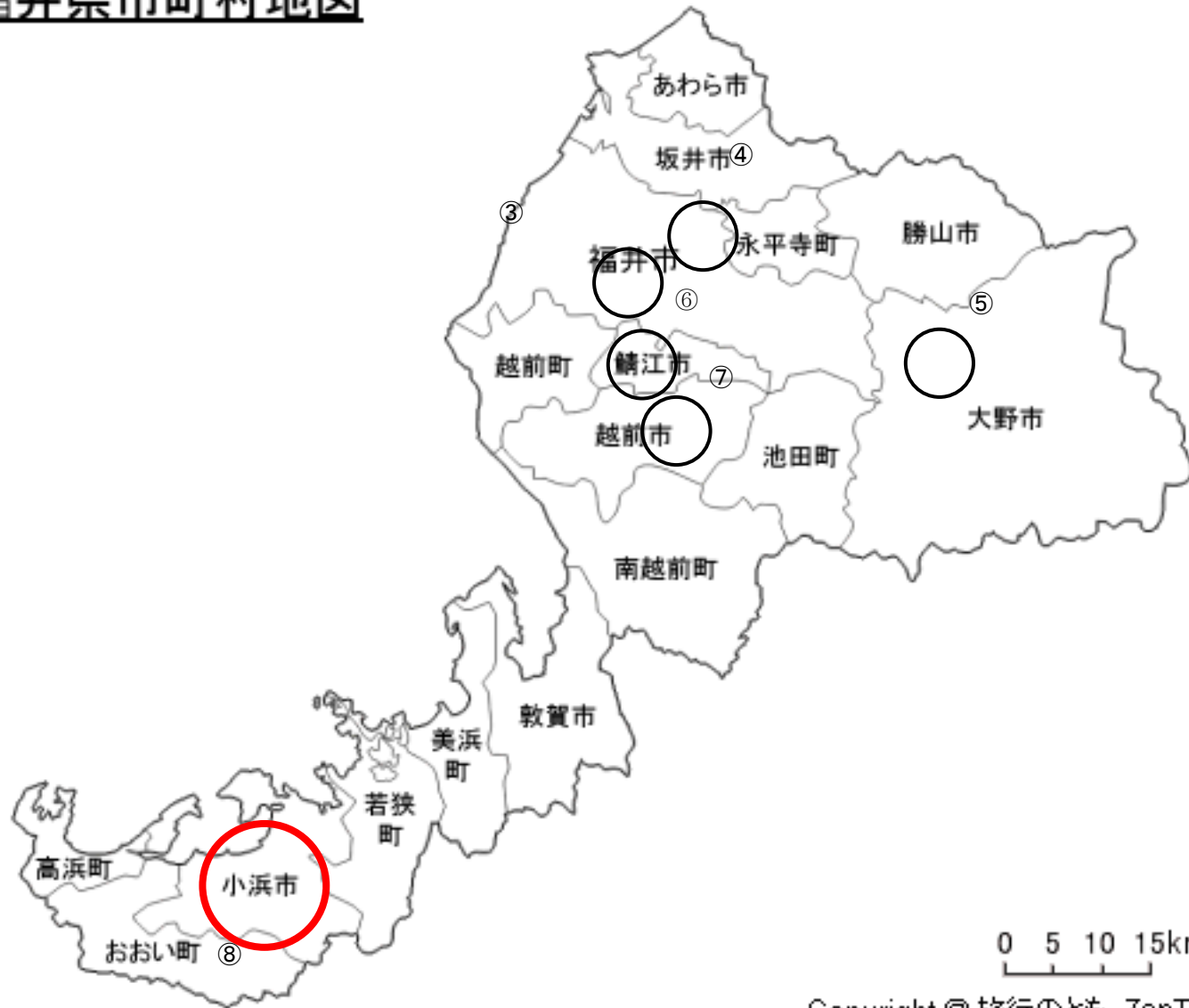
※ その他メールにて活動やりとり

1 これまでの調査箇所

NPO期	調査実施日	調査箇所
第3期	H27.10.12	福井市 東安居、社北、社西地区
第4期	H28.10.16	福井市 東藤島地区
第5期	H29.10.1	大野市 本町～糸魚町
第6期	H30.12.16	鯖江市 水落町他
第7期	R1.11.4	越前市 大滝町
第8-9期	R3.10.30	小浜市周辺

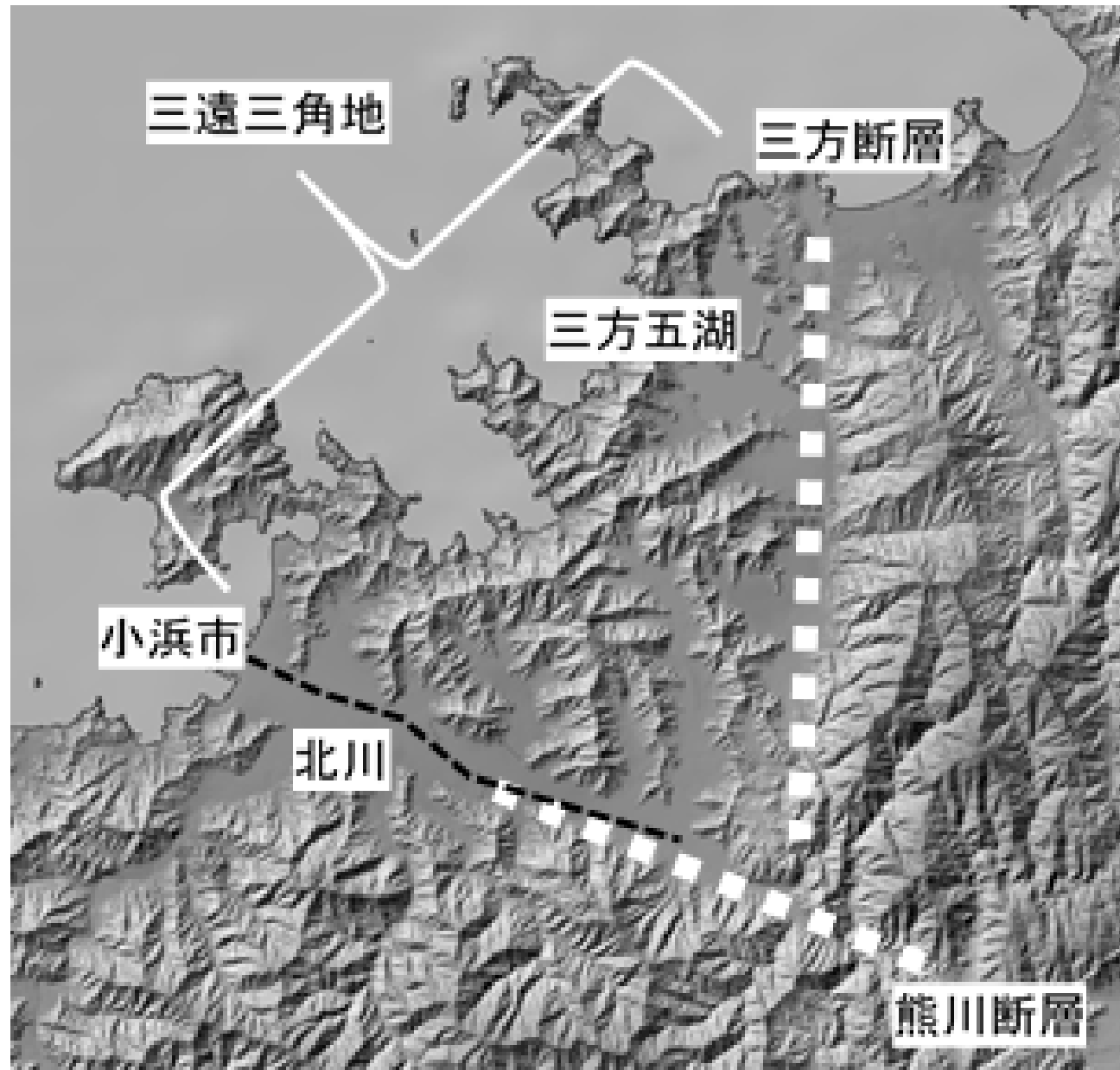
1 これまでの調査箇所

福井県市町村地図

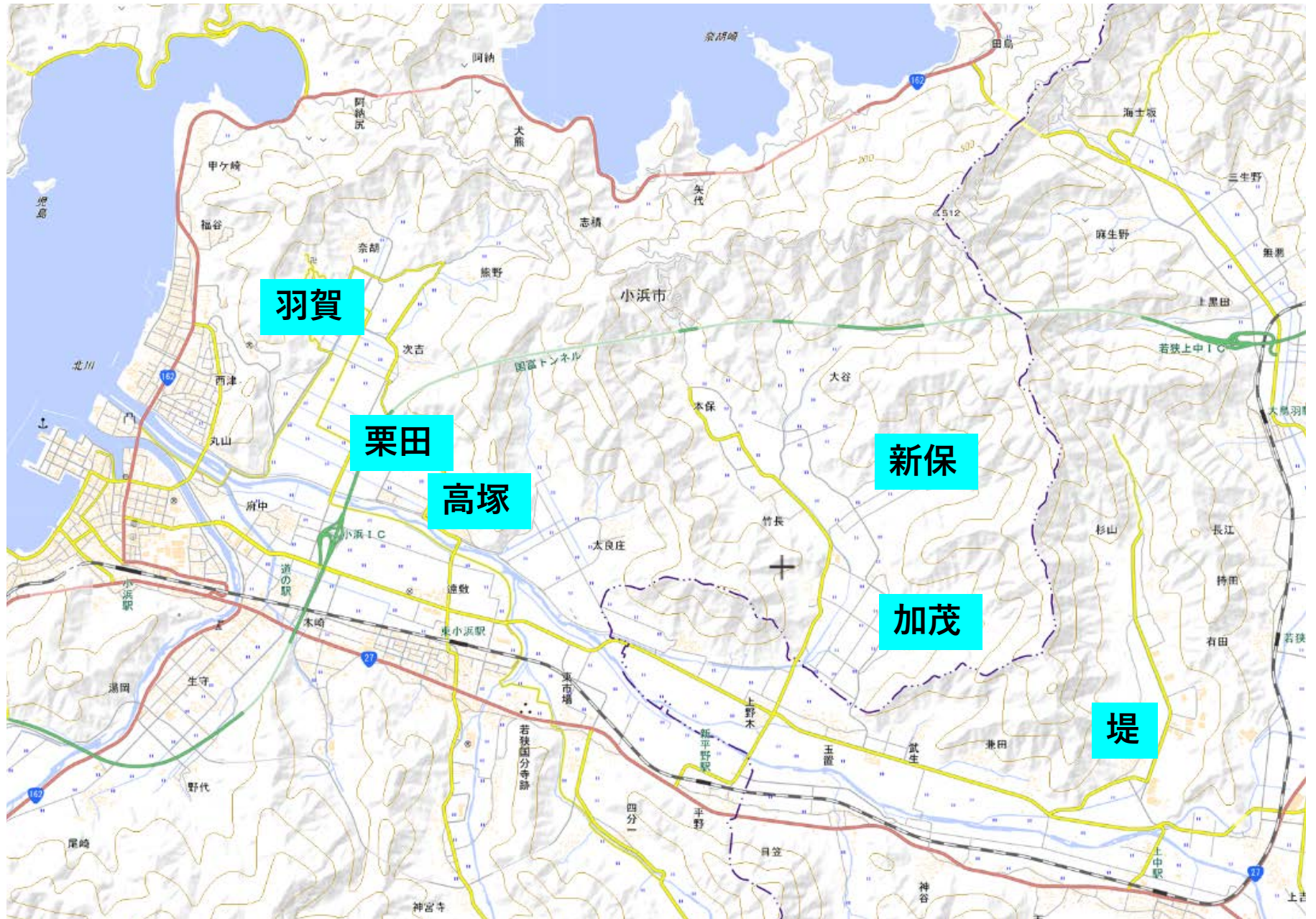


Copyright © 旅行のとも、ZenTech

2 小浜～三方の地形



2 小浜周辺の地形



2 小浜周辺の地名

羽賀：「はけ、がけ」で湿地や荒れ地を意味する

栗田：クリはクレ・クル(崩れる、えぐられる)

加茂：「カマ」から転じて、えぐり取られた地形や
低湿地の浸水地名

新保：新たに開墾された土地を指す言葉

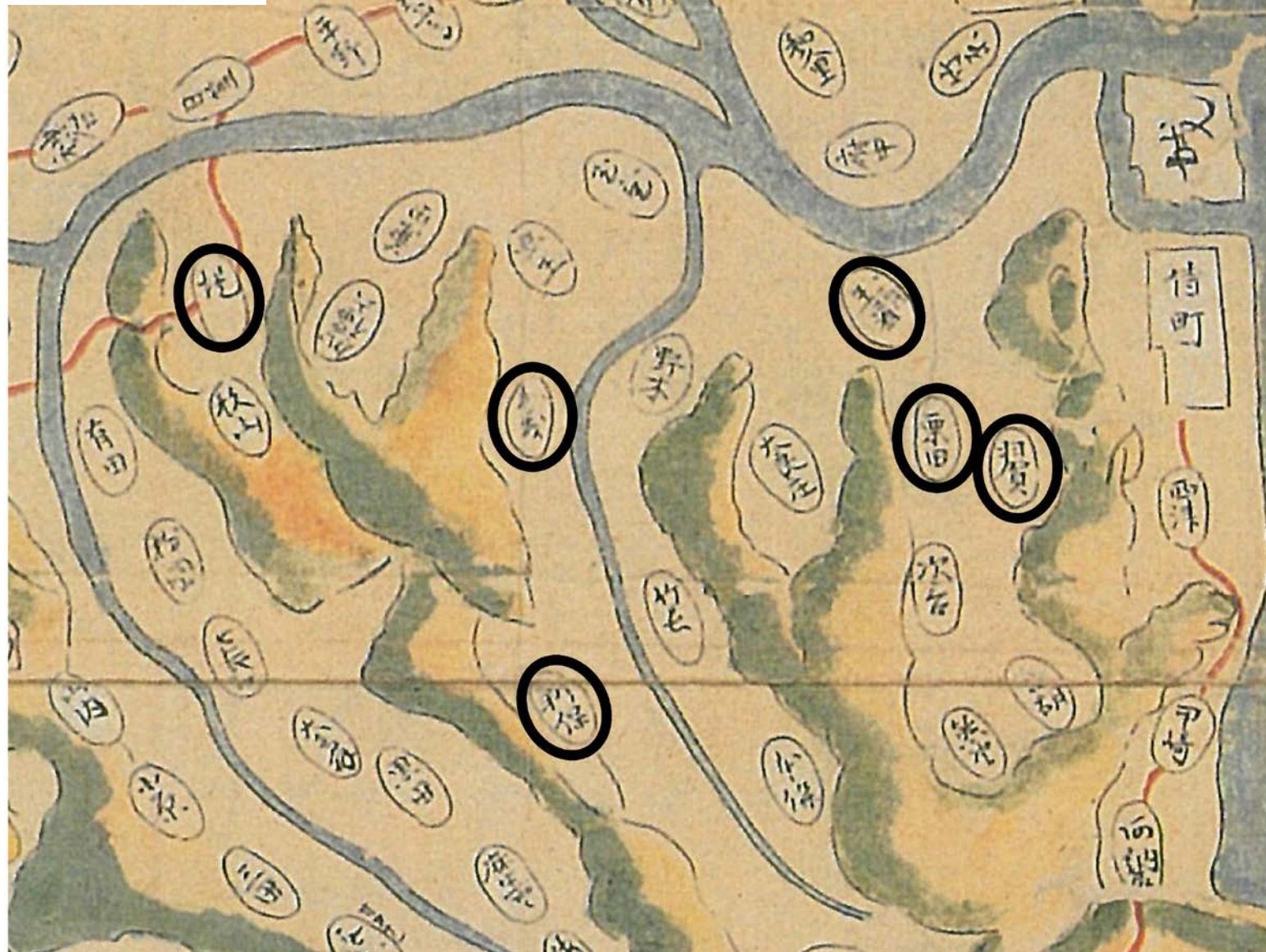
堤：池水を言う。堤防・土手をツツミというのは
第二義であろうとのこと。

高塚：砂丘、古墳

〔1673年〕 以前若狭国図

[illegible]

小浜周辺

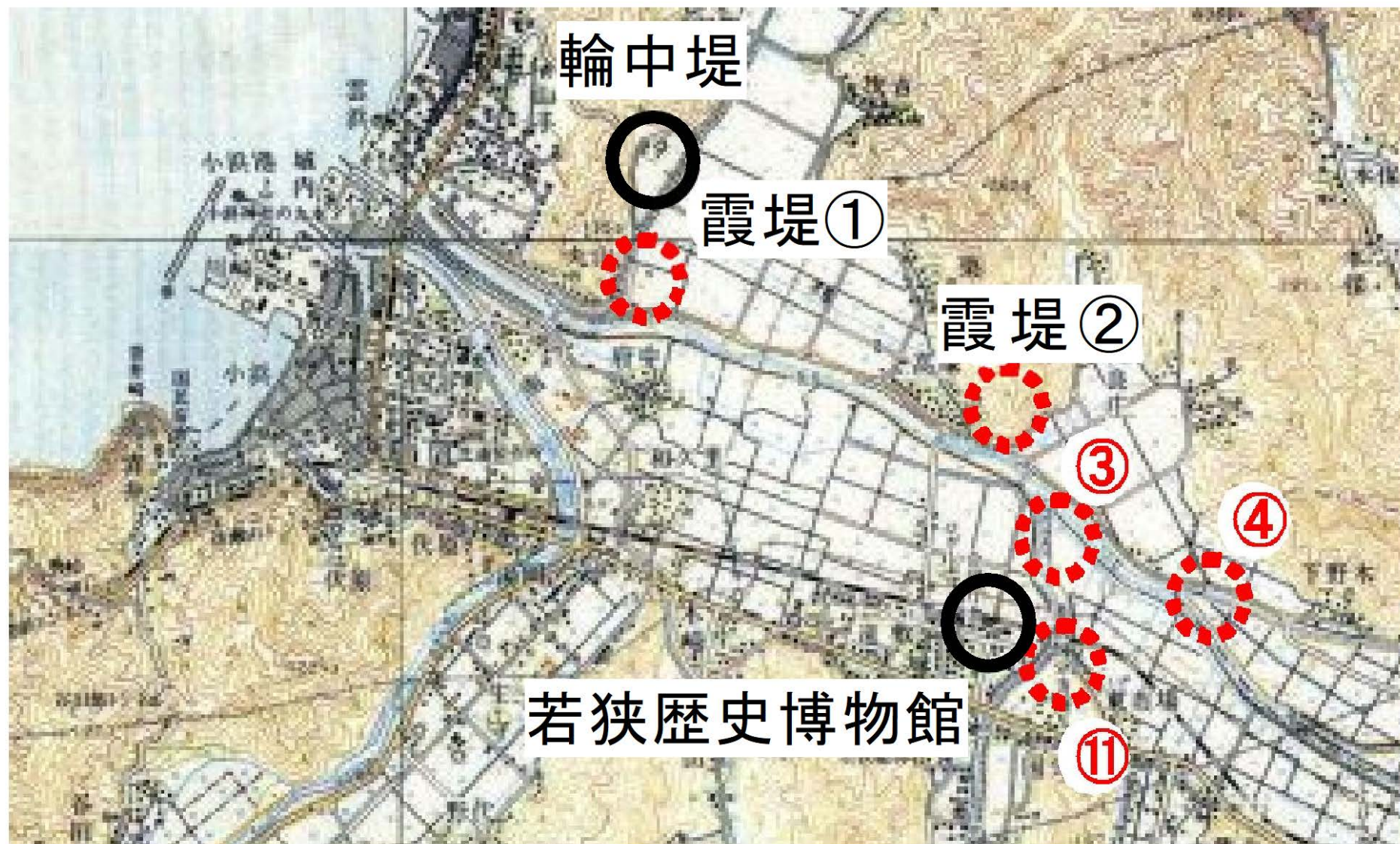


3 安永四年〔1775年〕以前若狭国図

小浜周辺



4 現地調査



4 現地調査（輪中堤計画箇所全景）



4 現地調査（丸太杭打設状況）



4 現地調査（江古川合流点付近の全景、霞堤①）



4 現地調査（北川と江古川が並走する区間の状況）



4 現地調査（太良荘霞堤全景、霞堤②）



4 今後の活動予定

NPO第8～9期の報告では小浜市の北川周辺に着目して調査を進めており、今期は現地調査を実施することができた。

若狭歴史博物館では古地図や地名に関する情報も入手できたため、最終報告に向けてさらに調査を進め、防災・減災のあり方について整理、報告したいと考えている。